

【熊本県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
菊池市ほか	菊池台地	選果システムによる「鹿本スイカ」・「メロン」のブランド確立	1	H28.06	1
熊本市	小島	玉ねぎなどの周年作付により地域の所得を向上	2	H30.03	4
八代市	郡築	排水機場の改修により農地や公共施設の湛水被害を防止	3	R元.12	6
熊本市	小島	基盤整備を契機とした高収益作物の作付拡大による所得向上	4	R4.03	8
玉名郡和水町	十町	地域団体「夢ランド十町」を核とした「みんなが主役のむらづくり」	5	R5.03	9
宇城市	大口	基盤整備の実施による生産性の向上や地域への波及効果	6	R6.03	10
菊池市	菊池佐野	事業を契機に設立した法人による生産強化と地域に活力をもたらす大学生との交流	7	R7.03	11

【工夫のポイント】

- 光センサーや空洞検査を用いた**選果システムの構築**により、徹底した品質管理を行うことで、「**鹿本のスイカ**」をブランド化。
- 道の駅「**メロンドーム**」を整備し、加工品等を**直接販売**することで、農産物の付加価値を高めるとともに、都市との交流を通じて地域**ブランド確立に貢献**。

基盤

**かんがい施設の整備による
 労力の軽減と経営規模の拡大**

農業用水の安定供給による省力化や連棟ハウスの導入等により、農家の規模拡大が可能となる。



国営事業で整備された
 ファームポンド



給水栓による
 かん水(スイカ)



連棟ハウスの
 導入による規模拡大

基盤整備
 (S54年～H11年)

【整備前】

火山台地のため、水利条件は極めて悪く、当時からスイカの産地であった鹿本地方においても大部分の畑で**地下水を揚水後、ポリタンクで運搬利用**されており、多大な労力を要していた。



地下水利用のためのポンプ



ポリタンクによる運搬

【取組地域の概要】

- 位置 きくちし
 熊本県菊池市他3市1町(特定農山村等)



きくちだいち
 菊池台地地区

- 主要作物
 ・スイカ、メロン、イチゴ、ネギ、アスパラガス 等
- 主な支援施策
 ・国営かんがい排水事業(S54～H11)
 ・県営かんがい排水事業(S62～H11)
 ・中山間地域等直接支払交付金(H12～)
 ・多面的機能支払交付金(H19～)
 ・農業構造改善事業(H6) 等

生産現場

新たな防除技術の導入による経費の節減



- **太陽熱土壤消毒技術の導入**により、薬剤による防除技術と比較して経費が節減されるとともに、環境保全にも寄与。

加工・流通

生産物の検査による高品質な商品の流通



糖度センサー、空洞検査機



道の駅
 メロンドーム

- **光センサーによる糖度検査**や、**空洞検査**を通じた選果システムにより、高品質なスイカを流通。
- 道の駅「**メロンドーム**」における加工品等を含めた**直接販売**。

担い手

新規就農者支援による担い手の確保・育成

- 熊本県新規就農支援センターによる研修等を通じた新規就農者の確保。
- 中山間地域等直接支払による営農の下支え。



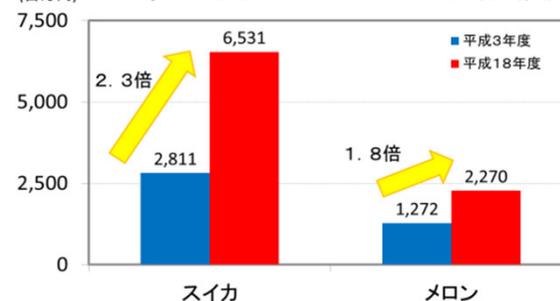
新規就農相談会 (H27)

**地域ブランドの確立による
 生産販売額の向上**

- 基盤整備による用水の安定供給に加え、太陽熱を利用した防除技術や光センサー等による選果システムなど**新たな技術の導入による品質の向上**を通じて、安定した産地形成を実現。



菊池台地地区スイカ・メロン生産額の推移



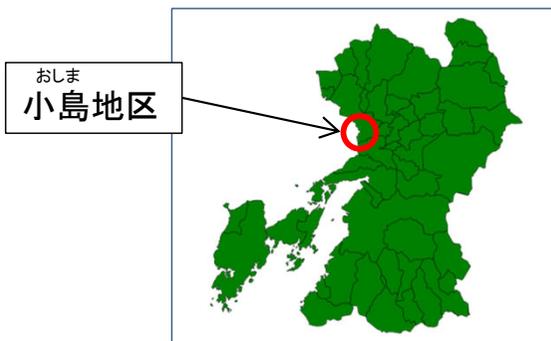
【出典：H18事後評価資料データにより試算】

【工夫のポイント】

- 基盤整備を契機として、地域農業の担い手となる **おしま有明営農組合（集落営農組織）** を設立。
- 地域一体となって **玉ねぎと飼料作物(WCS)の周年による複合経営を展開** するほか、食品メーカーや学校給食への提供など販路拡大にも取り組むことで、所得の向上を図る。

【取組地域の概要】

- 位置 くまもとし 熊本県熊本市



- 主要作物 玉ねぎ、水稻(WCS)、なす

○主な支援施策

- ・県営湛水防除事業(H21~H26)
- ・県営経営体育成基盤整備事業(H21~H32)
- 〔 高付加価値化農業施設移転等事業
 農業集落防災安全施設整備事業 〕
- ・県営排水対策特別事業(H2~H5)

ほ場の大区画化や排水不良の解消による作業効率の向上

- ほ場の排水性や作業効率を考慮し、標準区画1ha(50m×200m)で整備。
- 2機の排水機場を更新し、地域の排水性を向上させることで、水田の畑地化・汎用化を更に推進。



整備後の水田



排水機場（更新）

基盤整備 (H21年～)

【整備前】

不整形かつ狭小なほ場であり、**大型農業機械の導入が困難**で作業効率が低い営農であった。また、用排水も兼用水路であり、豪雨時の湛水などの被害に見舞われ、**不安定な農業経営**が続いていた。



狭小な農地



湛水状況(H20年6月)

タマネギと水稻(WCS)との複合経営

- 汎用化された水田で玉ねぎを生産。**超極早生～晩生まで多様な品種を作付け**するほか、WCSの生産を組み合わせるなど**周年作付けを実現**。
- WCSの**栽培は営農組合、収穫は畜産農家が行う**など飼料生産体制を構築。

栽培体系	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
タマネギ	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	◎		
WCS						◎	■	■	■	■	■	■

※表作にWCSを作付けし、タマネギの栽培期間を長期間確保。

生産現場

食品メーカーとの契約栽培で販路を拡大

- **人気イタリアン食品メーカーとの契約栽培**や学校給食への提供など、複数の販路を確保することで、経営の安定化に取り組む。

加工・流通

おしま有明営農組合を法人化(予定)

- 基盤整備を契機に、地域農業の担い手となる「**おしま有明営農組合**」を設立し、**農地を集約**。近年は、法人化による経営基盤強化を構想中。

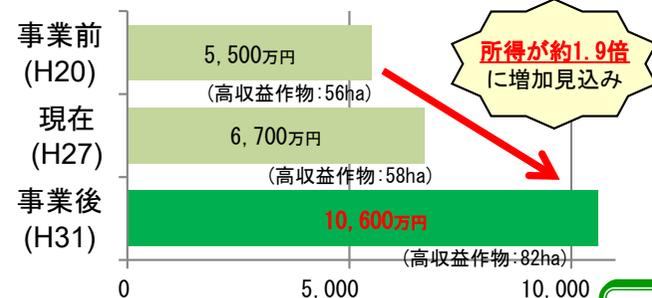
担い手

高収益作物作付の拡大による所得増

- 基盤整備による水田の汎用化によって、玉ねぎの作付けが可能となったほか、WCSなどを始めとした**多様な品種の組み合わせにより、周年での生産体制を構築**。
- 有名食品メーカーとの契約栽培など、販路拡大にも取り組むことで、**地域全体での高収益作物による所得が増加**。



【小島地区の高収益作物による所得(万円/年)】



【出典：熊本県資料】

【工夫のポイント】

- 流域の開発などの立地条件の変化により、**農地や農業施設、住宅地の湛水被害が深刻化**。
- 排水機場を整備し、**強制排水を行うことにより、災害を未然に防止**。
- 水稻主体であった**干拓地は野菜の一大産地として大きく飛躍**。

【取組地域の概要】

- 位置 やつしろし
熊本県八代市



- 主要作物
・水稻、い草、トマト等
- 主要施設
・排水機場
- 主な支援施策
・県営かんがい排水事業(S41~S56)
・県営排水対策特別事業(H1~H8)
・県営経営体育成基盤整備事業(H3~H16)
・ストックマネジメント事業(H25~R2)

農地や農業施設の湛水被害を防止

排水機場の新設・改修により**流下能力の向上**が図られ、豪雨時の**湛水被害の発生が防止**され、地域の安全を確保。



基盤

基盤整備
(S41年~)

【整備前】

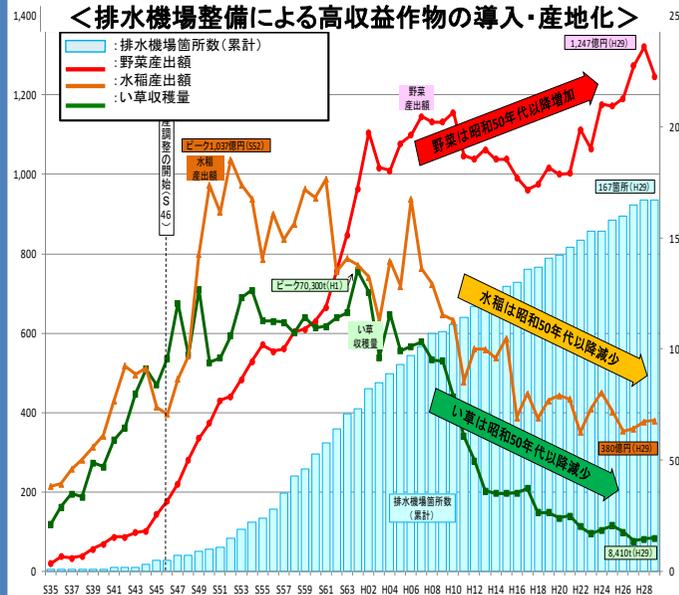
受益地は低平な干拓地で排水施設が未整備であったため、**豪雨のたびに農作物や農業用施設、公共施設に被害が発生**。
地区下流部では**排水路を堰上げし、用水不足に対応してきた反面、洪水時には湛水被害が発生**。



安定的な農業経営の確保

- 豪雨時においても**湛水被害が発生せず**、また、**汎用化された水田では、水稻主体からトマトやキャベツ等の高収益作物の生産拡大が可能**となり、**野菜の一大産地として大きく飛躍**。

生産現場

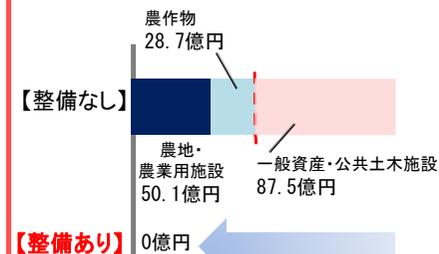


湛水被害の未然防止

- 平成30年7月の梅雨前線豪雨においては、**3日雨量約262mmの降雨があったが、排水機場の運転により湛水被害を未然に防ぐことができた**。
- なお、同程度の降雨量(243.8mm/3day)を観測した平成20年6月は、排水機場が未改修であったことから、当該地域での湛水被害が発生した。

農業関係想定被害額

- **約166億円の想定被害を未然に防止**。
(関連事業を含む整備費用33.8億円)



【対策のポイント】

- 基盤整備を契機として、地域農業の担い手となる集落営農組織「**おしま有明営農組合**」を設立。
- 地域一体となって、玉ねぎと飼料作物(WCS)の周年による**複合経営**を展開。
- 学校給食等への提供など、販路拡大にも取り組むことで**地域の所得を向上**。

【取組地域の概要】

○位置 くまもとし
熊本県熊本市



○事業名
農業競争力強化農地整備事業
(H21~R6(予定))

○主要作物
玉ねぎ、水稻(WCS)、なす

○受益面積 106ha

○主要工事
区画整理:106ha

基盤

農地の大区画化と排水不良解消により作業効率を向上



基盤整備

(H21~R6)

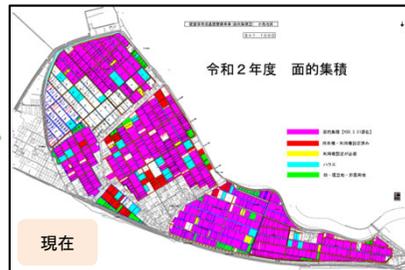


- 区画整理によって地区内農地の**約7割が1ha以上**に大区画化。
- 排水機場の新設・更新により湛水被害を防止(**湛水被害の発生ゼロを達成**)。

地域の取組

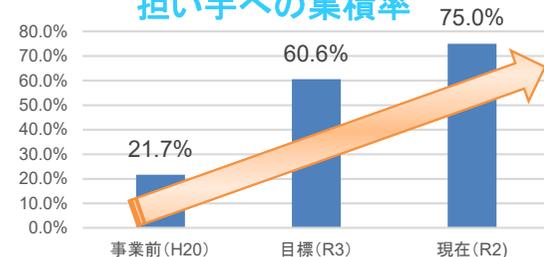
農地集積の加速化

- 集落営農組織「おしま有明営農組合」を設立し、**農地集積を加速化**。
- WCSの栽培は営農組合、収穫は契約牧場(酪農農家)で行う**飼料作物生産体制を構築**(WCSのみの集積率は**100%**)。



延べ80回以上の“徹底的な話し合い”により**地域団結力を強化**

担い手への集積率



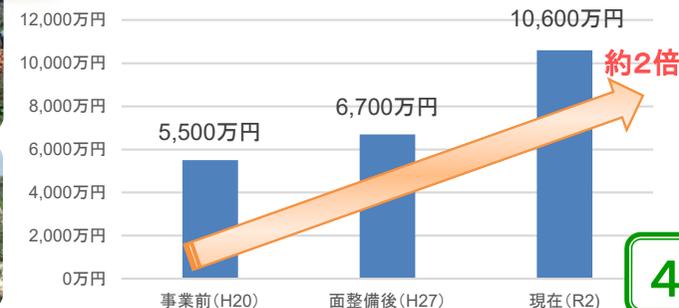
対策の効果

高収益作物の作付拡大による所得増加

- 玉ねぎの**作付拡大 (38ha→55ha)**により所得が増加。
- 学校給食への食材提供、加工品開発やネット販売による**販路拡大**。
- 玉ねぎの産地化(ブランド化)により販売価格も**約2倍に増加**。(10kg500円→1,000円)



高収益作物(玉ねぎ)による所得



【工夫のポイント】

- 基盤整備の実施により営農環境が大きく改善したことで、「**余剰労働力**」が発現し、地域の**女性達による活動が活性化**。移住者も増加。
- 事業を契機として、高収益作物の作付面積拡大や企業等の参入による**新たな雇用が創出**。
- 地域の更なる発展を目指して、**営農組合を設立**。(R2)

【取組地域の概要】

- 位置 たまなぐんなごみまち
熊本県玉名郡和水町



- 主要作物
 - ・水稲、WCS、いちご、ベビーリーフ 等
- 主な支援施策
 - ・県営ほ場整備事業(H14~H19)
 - ・多面的機能支払交付金(H19~)
 - ・中山間地域等直接支払(H12~)

基盤

ほ場整備により営農環境が大きく改善

農地の集団化や農道、用排水路の整備を実施したことで、農地の汎用化と大型機械の導入を実現し、**営農環境は大きく改善**。



整備後(20a区画)

基盤整備

(H14年~H19年)

【整備前】

ほ場区画は、**狭小(平均9a)かつ不整形**で、更に**農道も狭く**、水路は**用排兼用の土水路**のため、営農に**多大な労力が必要**。



整備前(9a区画)

生産現場

町内最大級の営農組合設立

- 農地を効率的かつ総合的に利用し、地域農業の振興と農業所得の向上を図ることを目的に、**町内最大級の「十町営農組合」**を設立。法人化を目指して**機械の共同利用**などを開始。



十町営農組合設立総会

地域の取組

地域団体「夢ランド十町」と女性の活躍

- **地域団体「夢ランド十町」**は、メンバーの**約半数が女性**で構成され、**現会長も女性**。
- 基盤整備を通じた労力削減による「**余剰労働力**」を活かし、**地域の女性を中心に**高齢者等への配食事業、子供向け農業体験、マルシェ、都市農村交流事業など様々な取組を行い、**地域が活性化**。R3年「農業農村整備優良地区コンクール」で**農村振興局長賞**を受賞。
- 記録の残るH16年以降、**33団体、700名以上の視察**を県内外から受入れ。



高齢者向け配食事業



和水町マスコットキャラクター「なごみん」と夢ランド十町の池上会長

新たな雇用の創出と移住者の増加

- 企業や農業生産法人の参入により、**地元**に**新たな雇用が創出**。【ベビーリーフ13人、農産品加工20人】
- 地域活動の活性化により地域外にも「**十町ファン**」が拡大し**移住者が増加**。【移住家4戸】



ベビーリーフのハウス



移住者による空き家を活用した宿泊施設

組織経営体数と農家所得の推移

- 基盤整備により営農環境が整ったことで、企業や法人等による**組織経営体が増加**。【5経営体増加】
- 農地の汎用化による高収益作物の導入や企業等の参入により**農家所得が向上**。【3.7倍に増加】



【工夫のポイント】

- 区画拡大と合わせて耕作道や作業道を整備。防除作業の機械化により、飛躍的に**農作業が効率化**。
- 事業実施時に既存ミカン樹を**堆肥化し、造成後の農地に還元**。
- 事業完了後、多数の若手後継者が成長。H28年度から、**若手後継者を中心に、隣接地で新たな基盤整備事業に着手**。

基盤

農地の大区画化と営農作業の効率化

- 農地の集団化や区画拡大、耕作道や作業道の整備により、防除作業時のスピードプレーヤ及び農作物搬出のための動力運搬機が利用可能となり、**労働時間を大幅に削減**。
- 事業実施時に既存ミカン樹の処分が大きな課題となったが、**堆肥化の上、造成後の農地に還元**。



基盤整備

(H14年～H18年)

【整備前】

ほ場区画は、**平均14.4aと極小かつ点在している**。
耕作道や樹園地内の作業道もないため機械化できず、営農に**多大な労力が必要**。



【取組地域の概要】

○位置 うきし みすみまち
熊本県宇城市三角町



- 主要作物
・柑橘(温州ミカン、デコポン)
- 主な支援施策
・県営畑地帯総合整備事業(H14～H18)

加工・流通

収益拡大のチャンス

- 事業を契機に、温州ミカン中心からデコポンなどの晩柑を併せて生産。集中していた**収穫時期が分散**され、**ゆとりのある作業が可能**に。
- 主にJA熊本うきへ出荷され、一定の糖度以上のミカンやデコポンは、プライベートブランド化し全国に出荷。
- 果樹生産による販売金額は**事業前の6.3倍**に大幅アップ。

■労働時間
(大口地区) (時間/10a)



■果樹生産額
(大口地区)



地域の取組

繋がる人 活気づく地域

- 県内外から視察を受け入れ、栽培技術を学ぶ学生や収穫を楽しむ子供など、繋がりが多い。
- 宇城市が、離農減少対策と併せ、若手農家をイノシシ等の鳥獣害対策実施者として育成する『くまもと☆農家ハンター』の取組を実施。



くまもと☆農家ハンター
ロゴ

基盤整備がもたらした波及効果

- **大口地区の成功を受け、後継者の強い希望により、H28年度から隣接する大口西部地区の荒廃農地整備を実施**。
- 整備後の農地約8割が大口地区の担い手に集積される計画で、**更なる収益増が期待**。



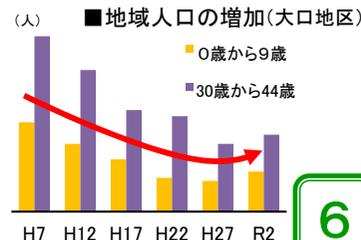
■収益拡大の見込
(大口西部地区)



■土地利用率の見込
(大口西部地区)



- 事業がもたらした効果は若手農家に大きな刺激を与え、後継者が多く育っている。その勢いは留まらず、**地域の親や子ども世代の数が増加に転じるほど**。



【工夫のポイント】

- 基盤整備により農地、用排水路及び農道を整備し、**大型機械の導入**等が可能に。
- 事業後に設立した**法人を中心に農地集積**や**栗園整備**を実施。
- **ボランティア活動**をきっかけとした**学生との交流**が**地域の活力**に。

【取組地域の概要】

○位置 きくちし
熊本県菊池市



○主要作物
・水稲、ごぼう、さといも

○主な支援施策
・県営中山間地域総合整備事業(H21~H28)

基盤整備による生産性の向上

- 農地(用排水路、農道)の基盤整備により、大型機械の導入が可能に。



基盤整備

(H21年~H28年)

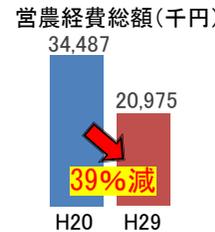
【整備前】

高齢化、人口減少に加え、**未整備な用排水路や農道**による低い生産性が課題。



基盤整備によって生まれる余剰労働力

- 事業実施により**営農経費が約4割削減**されたほか、事業後は堆肥舎等の建設により更なる効率化。
- そこで**生み出された余剰労働力**により、耕作放棄地となっていた隣接する**栗園を再生**。
- 収穫された栗は高齢者や女性が栗剥きや選果を行うなど、**地域営農の雇用を創出**。



生産現場

基盤整備を契機とした法人の設立

- 基盤整備が進む中、営農意欲を持ち続けていけるかという課題が地域の共通認識として浮上。
- その結果、平成30年に「**農事組合法人菊池佐野**」が設立。



担い手

地域活性化や関係人口増に繋がる交流

- 県内大学生が、平成28年の熊本地震で被災した本地区へ復旧支援を行ったのがきっかけ。
- 法人とともに水稲、ごぼうの営農や栗園整備等の**支援活動**を実施(約60名のボランティアメンバー)。



地域の取組

担い手の体質強化、収益力の向上

- 法人が設立されたことと同時に中間管理機構を活用し、当地区の**農地26ha全てを法人に集積**(事業前は5.2haの集積)。
- **再生した栗園も10haまで集積**が進み、収穫された栗は「**さのまるん**」として**ブランド化**。
- 「さのまるん」は冷凍剥栗として全国各地に出荷しており、**各方面から好評(東京では出荷量up)**を得ている。



ボランティアによる地域の魅力発信

- 復興支援のみならず、学生たちの発案によりSNSを駆使して**地域の魅力発信を目的としたクラウドファンディング**を実施し、**目標金額(80万円)を達成**。
- この資金は、**当該ボランティアに要する移動費や物資の調達費用**等に活用した。

